

とちぎ米産地だより【12月号】

<24年産のとちぎ米に関する情報をいち早くお届けします！>

第9号 平成24年12月10日(月)
発行責任者:JA全農とちぎ 米穀課

1. とちぎ米日記

12月の稲作業 ～稲ワラの利用～

①**秋耕**(シュウコウ)・・・米の収穫後、田を耕して稲ワラを鋤(す)き込む作業のこと。一般的には収穫直後と11月～12月に2回行います。土中で稲ワラを腐らせ堆肥化させることで、来年のための土づくりをしたり、雑草や病害虫を減少させたりする利点があります。

②**耕畜連携**・・・稲ワラを畜産農家に供給し、牛糞と混ぜて堆積・発酵させた堆肥を田に散布し還元します。

③**しめ縄作り**・・・新年に向けて、稲ワラを乾燥させ編み込み、神社や家に飾るしめ縄を作ります。

①秋耕の様子



2. 栃木県の初詣情報

日光二社一寺

【住所】栃木県日光市山内2301 【駐車場】約200台
【最寄駅】東武日光駅、JR日光駅から徒歩約35分、
または東武バスの世界遺産めぐりバスで約10分の表参道下車すぐ。

●日光東照宮

誰もが知っている世界遺産日光の中心的存在で、徳川家康公を祀るため1617年に創建された神社です。御神徳としては、**家内安全・身体健全・厄除開運・交通安全・商売繁盛**など。初詣の際には、歳旦祭と新年特別祈禱が行われ元旦の0時から3時頃までは陽明門のライトアップなどもあり多くの参拝客で賑わっています。

●日光山輪王寺

東照宮のすぐ南にある世界遺産日光の登録資産の1つとなっているお寺です。御神徳としては、**商売繁盛・家内安全・厄除け・縁結び・開運招福**など。初詣の際には、新春祈禱が行われ、参拝客はおよそ10万人参られるそうです。

●二荒山神社

日光東照宮の北側にある日光二社一寺の一つです。御神徳としては、**縁結び・開運・商売繁盛・家内安全**など。初詣の際には、かがり火、新春一番太鼓、新春開運一番祈禱執行や歳旦祭が行われています。参拝客は、およそ35万人参られるそうです。



←東照宮(左)
二荒山(右)

佐野厄除け大師→



佐野厄除け大師

【住所】栃木県佐野市金井上町2233 【駐車場】周辺無料駐車場用意。
【最寄駅】東武佐野線の佐野市駅から徒歩約6分、
またJR佐野駅からは徒歩約8分。

惣宗寺、通称・佐野厄除け大師でよく知られている天台宗の寺院です。御祭神は、元三慈恵大師をお祀りしています。神徳としては、通称からもわかるように**厄よけ・身体安全**を中心に、**家内安全・商売繁盛・心願成就**など。佐野厄除け大師さんのHPIに、生年月日を入力すると厄除け・方位よけの早見表がありますのでより便利です。初詣の際には、大晦日から元旦の朝7時まで祈願の受付を行っていて、初詣の参拝客はおよそ57万人参られるそうです。

3. 産地紹介 ～栃木県内のJAを紹介します！～



地域のみなさまと共に支え合いながら

豊かな未来を目指します

JAおやま管内は小山市、野木町、下野市の2市1町からなり、高低差10m以内の極めて平坦な地形を形成しています。ほぼ中央を思川水系が流れ、流域の南北に広がる水田地帯と東部丘陵の畑地帯に分別されます。地区の総面積は22,637haで、耕地面積は田8,330ha、畑2,200haで耕地面積の割合が約50%と県内で最も高い地帯であり、年間平均気温13.7度、年間降水量1,245mmと気候にも恵まれています。また、旧国道4号線やJR宇都宮線の沿線を中心に早くから市街地が形成され、首都圏に位置する地理的条件から大規模な住宅造成が行われ、混住化が進んでいます。このような環境のもと、JAおやまは「人と自然の調和から新たな創造を」を理念に掲げ、人を愛し、自然とふれあい、未来に向けて活力ある地域づくりをめざし、事業を展開しています。

管内は穀類の生産が盛んであり、暑い夏にはぴったりのビールの原料となる大麦の作付けは1,736haと、全国有数の産地です。また小山市は、小麦の生産量が県下一を誇り、うどん用小麦として最良の「イワイノダイチ」を始め「タマイズミ」などの品種を生産しております。また米の作付面積は3,556haであり、JAおやま産のコシヒカリは関東平野の清らかな水と澄んだ空気の豊かな大地で育っているため、ふっくらとした粒揃いで、ほどよい粘りのある自信作です。

栃木県のキュウリの年間出荷数量は、約5,437トンありますが、そのうちの約54%(約2,920トン)が管内で生産されています。また、管内のキュウリは通年全ての作型において県内で唯一、農林水産大臣からの野菜指定産地の認定を受けています。主に京浜方面や、県内では宇都宮の市場に通年出荷されています。



JAおやま 思川カントリーエレベーター

JAおやま管内には、9基のライスセンターと2基のカントリーエレベーターがあり、全部で11基の共同乾燥調製施設で荷受けを行っております。その中でも小山市黒本の『思川カントリーエレベーター』は2012年10月に新設された、敷地面積19,732㎡、構築面積1,340㎡、総処理量3,000tの最先端の大規模施設です。

小山地域では、米をはじめとして麦・大豆の二毛作や麦の単作といった土地利用型作物を主体とした農業生産が展開されており、近年はさらに、新規需要米の作付拡大を方針として掲げております。

新規需要米については、改正食糧法における用途限定米穀として収穫段階から主食用米との区分管理を行う必要があることや、地元穀粉会社と契約栽培(25年産では2,000トン見込み)を実施している米粉用米の安定的な供給を図るため、このカントリーエレベーターの設置に至りました。

主食用米の生産体制に支障を与えることなく、新規需要米の生産拡大を図ることが可能となり、ひいては自給率向上に繋がる効果があると見込まれております。



新設: 思川カントリーエレベーター



JAグループ栃木

※ 問合せ先 ※

◆内容に関する、ご意見、ご質問、ご感想も、是非、お寄せください。

JA全農とちぎ 米穀課 電話:028-626-2174 FAX:028-621-2037